

Prof./Dr. Jennifer A Hargreaves の講演会へのお誘い

2020年に東京オリンピックが開催されることになりました。スポーツが巨大な政治的課題になってきています。現在語られているのは、安全・安心等と言った、ハード面の事ばかりです。

言うまでもなく、Olympic Gameは、“Olympic Charter”に盛られた精神のもとで開催される、スポーツを通じた世界のスポーツマンたちの友好連帯を促進する、「平和運動」があります。創始者ピエール・ド・クーベルタンは、このOlympic Movementを通して、単なるスポーツマンの競争だけではなく、全ての人間がスポーツ文化を享受できる（Tous les sport pour tous）ようにしたいと訴えていました。パラリンピックが、Olympic Movementに加えられたのもその証です。

他方、国際連合教育科学文化機構（UNESCO）も、1978年に「体育・スポーツ国際憲章」を制定し、人間にとってのスポーツ文化の持つ意味を指し示し、「体育・スポーツの実践はすべての人にとって基本的権利である」と第1条で宣言しました。さらに、第11章第3項では、「世界の共通言語としての体育・スポーツにおける協力と相互利益の追求を通じて、すべての諸国民は、恒久平和、相互尊重、および友好の維持に貢献し、国際平和の解決のための好ましい環境を作り出すであろう」と宣言しています。

こうした国際的な世論の流れのなかで、2011年6月には、日本においても、「スポーツは、これを通じて幸福で豊かな生活を営むことが人々の基本的権利である」（第2条）とする「スポーツ基本法」が制定されました。私たちは、同法の精神を深化させ、まさに万人の生活を豊かにし、健康に寄与できるような「スポーツ」の在り方を希求しつつ、2020年のオリンピック東京大会を準備してゆかねばなりません。

果たして、スポーツは万人の権利であるとする“Sport for All”の理念は、十分に浸透し、具体化されてきているのだろうか？ 私たちにつきつけられたこうした課題に真正面から挑み、永きにわたり研究を続けている研究者の一人が、Professor Jennifer A. Hargreavesです。彼女は、スポーツから疎外されてきた、障害者、女性、セクシャル・マイノリティーなどの問題を探求してきました。そして、こうした問題意識に立脚し、世界各国の研究者を束ね、Routledge Handbook of Sport, Gender, and Sexualityという大著を編集しました。彼女の編著は、世界中の全ての人々がスポーツを享受するために、その矛盾や困難が最も集約された現実に向かい合い、それらを克服するための方向性を示した、力強い一書です。日本が、「スポーツ基本法」を真に日本のスポーツ振興のために機能させ、2020年のオリンピック東京大会をより豊かなものにしようとするならば、彼女の指摘は、忘れてはならない重要な「視座」になるにちがひありません。

さらに昨今、大きな社会問題になっている、スポーツ場面における、浦和レッズに見ら

れるような「人種差別」、スポーツ指導の現場の「暴力」の問題や「セクハラ」の問題を考えると、単なる指導法といったレベルではなく、そもそも人間にとってスポーツとは何なのか、という根源的な問いが深められる必要があります。この講演において、Hargreaves 教授の提起する人間存在におけるスポーツの位置・役割、それをふまえた政策のあり方、といった根源的な思考が、日本に生起している問題をとらえるにあたっての重要な指針となることもまちがいありません。

彼女の講演が、日本のスポーツに関係する学者・研究者のみならず、スポーツ関係者と共にスポーツ政策に関係する人々に対し、重要な基本的「視座」を提供してくれると思います。

実際にスポーツを生活の中に取り入れ、全ての人々の生活を豊かにしてゆくために何が必要か？ 世界のスポーツマンをお迎えし開催する 2020 年五輪を、どのような内容で開催するのか？ これらの問題を考えるにあたって、重要な問題提起となるはずです。

この講演は、明治大学の「国際人材育成プログラム」の一貫として企画され、明治大学専任教授会連合が後援して開催されます。

“My Life in Sport Research :Focusing on Difference and Identity”

-Sport, Gender, Sexuality -

開催日時： 2014 年 4 月 12 日（土）

14 時 30 分 開場 および 受付開始

15 時 00 分 開始 17 時 30 分 終了

開催会場： 明治大学 グローバル・フロント 1 階・多目的室

主 催： 平成 24 年度文部科学省選定 明治大学・立教大学・国際大学による大学間連携事業「国際協力人材育成プログラム」

後 援： 明治大学 専任教授連合会

コーディネーター及び司会： 寺島善一（明治大学商学部教授）

参加者への配布物：

- ・Hargreaves 氏の略歴
- ・講演の英文サマリー
- ・講演内容についての質問票(学部・学年・名前の項目を記載する)
- ・[国際協力人材育成プログラム] パンフレット

シンポジウムアジェンダ：

15時00分～ Opening Talk(日) ←川島高峰 (副学生部長・情報コミュニケーション学部准教授)

[Hargreaves氏への通訳：藤田結子 (商学部准教授)]

15時15分～ Keynote Speech(英) ← Jennifer Hargreaves氏 (60分)

タイトル：“My Life in Sport Research: Focusing on Difference and Identity- Sports, Gender, Sexuality -”

16時20分～ Break ← (学生からの質問書回収及び教員3名による内容精査) (15分)

16時35分～ Dialogue with Students(英・日)←モデレーター：ソラ陽子 (国際連携機構専任講師)

(約30～40分)

17時15分～ Closing Talk(日) ←長尾進 (副学長・国際日本学部教授, 本プログラム取組代表者) (約10分程度)

懇親会：明治大学 リバティタワー 23階「サロン 燦」18時00分より開始

←参加者からの会費制 (¥3,000程度)

BRIEF BIOGRAPHY

Jennifer Hargreaves is currently semi-retired, working as a freelance writer, consultant, reviewer, editor. She was previously Visiting Professor of Sport and Gender Politics, University of Brighton; Research Consultant, University of Southampton; Professor of Sport Sociology [Research], Brunel University, London); and Professor of Gender Studies in Sport at University of Roehampton.

Jennifer has played a pioneering role in the development of sport sociology, particularly (but by no means exclusively) with reference to the politics of gender, the social construction of the body, and issues of exclusion and discrimination. Her publications include: (1982) *Sport, Culture and Ideology*(ed); (1994) *Sporting Females: the History and Sociology of Women's Sports*; (2000) *Heroines of Sport: the Politics of Difference and Identity*;(2007) *Physical Culture, Power, and the Body* (co-ed.with Professor Patricia Vertinsky). Jennifer co-edits the book series, *Routledge Critical*

Studies in Sport (with Dr. Ian McDonald) and is currently co-editing (with Professor Eric Anderson) *Routledge Handbook of Sport, Gender, and Sexuality*. A number of her publications have been translated into other languages. She has given keynote addresses all over the world and has worked as a guest professor in Germany, Hong Kong and Japan. Jennifer was awarded the North American Society for the Sociology of Sport (NASSS) best book of the year award in 1994 and the NASSS Distinguished Service Award in 2008. In 2006 she received the Max and Reet Howell Award from the North American Society for Sports History (NASSH); and in 2011 she delivered the Sir Derek Birley Memorial Lecture for the BSSH (British Society for Sport History).